

三原二中校長通信

校訓「響き合う二中っ子」

キャッチコピー「響き合っていますか、私たち」

第9号

平成22年10月13日

言語活動の充実と相互作用(対話)の成立

1 言語活動の充実—言語技術教育

三森ゆりか(つくば言語技術教育研究所長)は、「ことばと私 2(現場への提言)」(日本教育新聞2008年3月24日)において、「言語技術教育」について、次のことを述べている。[太字は引用者による。]

- 「話す、聞く、読む、書く」という言語の4技能を、効果的に運用する上で必要なスキルを教えるもの。
- 特徴は「議論」を中心に授業が組み立てられていること。
- 「根拠に基づいて自分の意見を提示する」ということを前提に、考え方と議論の方法をトレーニングで身に付けていく。
- 言語技術を磨くことは、物事を論理的に考える訓練になる。
- PISA調査はまさに言語技術を問うもの。先進諸国の中で言語技術教育を行っていないのは日本だけ。

これらは、各教科のみならず、道徳、総合的な学習の時間、特別活動においても重要なポイントである。何故なら、例えば道徳の授業では、他者のものの見方、考え方、感じ方を受け入れ、自分自身のものの見方、考え方、感じ方とすり合わせながら、何が善なのかを追究することによって、道徳的価値及び自己の生き方について考え(小学校)、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深める(中学校)ことを促すことになるからである。ここに道徳性の発達の段階が引き上がっていくエネルギーが存在することになる。このことを考慮すると、各教科のみならず、道徳、総合的な学習の時間、特別活動において、言語技術を活用した相互作用(対話)、とりわけ生徒同士の相互作用(対話)が不可欠といえる。

2 道徳的思考のプロセス—道徳性の発達段階を意図した相互作用(対話)

(ア)「一人学び」の場の設定

- 論点に関わる必要な情報を取り出し、情報を整理する。【論理的読解力】
- 整理して得た情報から、論点に関わって思考する。【論理的思考力】
- 思考の結果、論点に関わる判断とその理由を明確にする。【論理的判断力・論理的表現力】

(イ) 相互作用(対話)の場の設定

- ペアトーク
- グループトーク(4人班)
 - ☆基本的なねらい—学力と人間関係の一体化、認知目標と態度目標の同時達成
- クラストーク

☆ペアトーク及びグループトークの結果を発表し、全体で討議する。

☆授業者が適切なパイロット役を務め、生徒同士の相互作用(対話)の成立を図る。

☆授業者が生徒の発達段階の違いによって意図的指名を行い、生徒に価値や真理を追究するようにさせる。(葛藤討議—「聞く(聴く)」「答える(応える)」「問い返す」←ソクラテス的問答—ソクラテスの「対話」、言語技術の活用)

(ウ) 道徳授業の充実

- 予想される生徒の反応の明確化—道徳学習指導案の指導過程における発問に対する想定
- 授業者のパイロット役としての力量の向上—「道徳性の発達段階の捉え」「言語技術の活用」